



在宅医療と介護の連携

第23回

～身近な事例から～

訪問リハビリテーションの活用

69歳の男性は、脳梗塞で入院し、右片まひが残り、おむつを使用していましたが、本人・家族の希望で退院しました。自宅で療養生活を送る中、訪問リハビリテーションを活用し、ベッドから起き上がりトイレに移動する訓練や、衣服の着脱などの訓練を受けました。その結果、おむつが外れ、表情も明るくなり、つえを使い屋内で歩けるようになりました。今では家族との外出も楽しんでいます。

訪問リハビリテーション

医師の指示の下、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が自宅を訪問し、身体機能の維持・改善、日常生活の自立を支援します。詳しくは担当のケアマネジャー・高齢者なんでも相談室にご相談ください。